

東京 世田谷区 工事現場隣接の擁壁崩れる 7世帯に避難指示

NHK 首都圏 NEWS WEB 02月14日 16時31分 配信

13日、東京・世田谷区の工事現場に隣接する擁壁が崩れた事故を受け、区は擁壁の上に建っている住宅に住む7世帯17人に避難指示を出し、避難を呼びかけています。13日午後4時すぎ、世田谷区成城の共同住宅の建設現場で隣接する擁壁が崩れました。当時、工事は行われておらず、この事故によるけが人はいませんでした。区は事故を受けて、安全を確保する必要があるとして13日夜遅く、この擁壁の上に建っている住宅に住む7世帯17人に避難指示を出しました。区によりますと、このうち14人が親せきの家などに、2人が近くの区の施設に避難しましたが、避難していない人が1人いるということです。区は警視庁など関係機関と連携し、原因を調査するとともに、擁壁に適切な措置が取られ、安全が確保されるまで避難が続く可能性があるとして、住民の相談態勢も整えることにしています。



NHKの報道番組(2月14日)より

成城で擁壁崩れ 7世帯16人避難 けが人なし

東京新聞(東京ニュース・世田谷区) 2023年2月15日 配信

13日午後4時ごろ、東京都世田谷区成城1の建設工事現場で、隣接するがけの土砂崩れを防ぐために設置されたコンクリート壁(擁壁)が崩れた。当時作業員はおらず、けが人はいなかった。区は土砂崩れの危険があるとして、がけの上に立つ住宅4棟の7世帯17人に対して避難を指示した。区は崩落の原因について「調査中」としている。擁壁はがけに沿って垂直に立っていた。崩落により土はむき出しになったが、形状は維持され、土砂が流れ出す状況にはないという。17人のうち16人が区施設や親類宅に避難した。



FNNプライムオン(2月13日17:17)より

*** 2月16日に現地を訪ね、同時にネット情報などを集めてみました。**



事故前の現場の状況(pic.twitter.com/OK5GP0ISz4 から)



グーグルマップで見た事故前の状況



国土地理院地形図より



グーグルマップより



①



②



③



④

建築計画のお知らせ	
建築物の名称	(住所) 大塚 1-1-1 大塚ビル
建築敷地の地名地番	世田谷区大塚一丁目一番地1号
用途	共同住宅
敷地面積	20.94 m ²
建築面積	70.28 m ²
延べ面積	96.97 m ²
構造	鉄筋コンクリート
基礎工法	2打
階数	地上5階 / 地下2階
高さ	24.97 m (標準 m)
着工予定	令和5年1月7日
完了予定	令和5年12月29日
建築主	(住所) 東京都世田谷区大塚1-1-1 (氏名) 株式会社 大塚ビル建設 代表取締役 田中 健一 電話 ()
設計者	(住所) 東京都世田谷区大塚1-1-1 (氏名) 株式会社 大塚ビル建設 代表取締役 田中 健一 電話 030 (419) 5837
施工者	(住所) 東京都世田谷区大塚1-1-1 (氏名) 株式会社 大塚ビル建設 代表取締役 田中 健一 電話 030 (419) 5837
標識設置年月日	令和4年11月3日
<p>●この標識は、(住所) 中高层建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例第6条第1項の規定により設置したものです。</p> <p>●上記建築計画についての説明の申出は下記へ御連絡下さい。</p> <p>(連絡先) 建設局 建設課 電話 030 (419) 5837</p>	
<p>〒158-0001 世田谷区大塚1-1-1 大塚ビル建設 代表取締役 田中 健一 電話 030 (419) 5837</p>	

これらの①～⑤の写真は筆者が2月16日の午後に撮影したものである。

上の“建築計画”によれば、当該敷地では地上5階、地下2階の共同住宅を建設中で、工期は令和5年1月7日から令和5年12月29日までとなっており、現在は地下掘削の最中だったようである。NHKの写真には掘削側面の土留め壁(矢板)が写っているため、掘削は相当程度まで進行していたようである。工事の際に、既存の崖法面の保護が充分でなかったために、鉛直壁が滑り崩壊を起こしたものと推察される。